

令和2年度第1回南砺市総合公共交通計画等検討委員会 議事要旨

日時 令和2年8月17日(月) 14:00～15:30

場所 南砺市役所福光庁舎大ホール

出席者 会長 東京経済大学経営学部 教授 青木亮
(敬称略) 副会長 南砺市地域づくり協議会連合会 会長 松本久介
委員 南砺市社会福祉協議会 理事 真草嶺信義
南砺市老人クラブ連合会 副会長 寺井都
南砺市PTA連絡協議会 会長 石黒公一
加越能バス(株)自動車部 部長 草木健
砺波地区タクシー協議会 会長 余西孝之
北陸信越運輸局富山運輸支局輸送・監査部門 首席運輸企画専門官 白砂健
北陸信越運輸局富山運輸支局企画調整部門 首席運輸企画専門官 鴻島純
富山県観光・交通振興局総合交通政策室 主任 田村勇人
富山県砺波土木センター工務第一課 課長 宮崎洋一
南砺警察署交通課 課長 加藤学
三和交通(株) 業務部長 宮本博之
西日本ジェイアールバス(株)北陸支店 支店長 大久保範繁
富山県交通運輸産業労働組合協議会 議長 石橋剛
公募委員 江田攻
公募委員 石割忠男
公募委員 佐竹弘昭
公募委員 村上幸子
公募委員 武田隆啓
南砺市総合政策部 部長 川森純一

主催者 南砺市 副市長 齊藤宗人
南砺市地域包括医療ケア部地域包括ケア課 課長 松田哲也
南砺市ブランド戦略部交流観光まちづくり課 課長 大橋誠
南砺市教育委員会教育総務課 課長 氏家智伸

事務局 南砺市総合政策部政策推進課 課長 竹中雅裕
南砺市総合政策部政策推進課 係長 林幸則
南砺市総合政策部政策推進課 主事 今枝祐樹

開 会

齊藤副市長 挨拶

青木会長 挨拶

以降、青木会長が議長となり議事を進行

協議事項（１）「自家用有償旅客運送の更新登録の申請について」説明
事務局）市営バスの自家用有償旅客運送登録について、別紙のとおり更新する。

質疑なし。

自家用有償旅客運送の更新登録の申請について、会長から委員が合意したことの確認がとられた。

協議事項（２）「南砺市営バス立野脇線の実証運行の延長及びルートの変更について」説明
事務局）新型コロナウイルス感染拡大の影響により、本年、市営バス立野脇線の正確な乗降データを取得することが困難であるため、実証運行を令和３年９月末まで延長したい。また、地区からの要望により、同路線を福光中学校及び福光南部小学校経由とするとともに、**JR** 高儀駅南バス停を **JR** 高儀駅前へ移設する。

以下、質疑応答

委 員）市営バス立野脇線は午前１便の運行となっているが、温泉施設もあることから午前２便にしてほしいという住民の要望がある。また、１８：５５立野脇発の便は、福光駅～福野庁舎前間は全く利用がないので、併せて検討してほしい。

事務局）本格運行に向け、乗降データや運転手へのヒアリング結果などを基に、ワーキングを開催しながら検討していきたい。

委 員）市営バスにスクールバスの機能を持たせているが、学校行事等によって下校時間が変わった場合に、どのように対応されるのか。

事務局）学校からの連絡を受け、臨機応変に対応していきたい。全く便のない時間帯については、スクールバスを併用してもらうなど、運行業者と協議する。

委 員）学校に乗り入れるとなると、父兄の送迎と重なると思うが対策は考えているか。

事務局）学校側とは事前に協議しており、父兄の車が出入りに集中しないよう、あらかじめ告知を行うこととしている。また、学年によって下校時刻が異なるため、あま

り送迎が集中しないこと、集中する場合は誘導を行う旨、学校側から回答があった。詳細は今後協議し、運行に支障がないようにしていきたい。

南砺市営バス立野脇線の実証運行の延長及びルートの変更について、会長から委員が合意したことの確認がとられた。

協議事項（３）「南砺市営バスにおける自由乗降について」説明

事務局）市営バスの自由乗降に関する問題点を整理したうえでワーキングを開催し、ご意見をいただいた。本年１０月頃に第２回目のワーキングを開催し、実証運行の内容や問題点に対する対応について検討する予定としている。

以下、質疑応答

委員）道路運送法が改正となり、自家用有償運送はこれまで住民の運送に限られていたが、観光客や来訪者の運送が可能となる。自由乗降の実施にあたっては、土地勘のない方も利用されるということも踏まえて検討してほしい。

委員）自由乗降は全ての便で実施するのか、一部の便で実施するのか。

事務局）夜間は難しいと考えるが、自由乗降の内容は今後ワーキング等で協議していく。

委員）検討スケジュールを早めることができないか。降雪期にどこが危険で、どこが安全かといった見極めも必要でないか。１２月くらいに実証運行を始めてほしい。

事務局）今後、運行内容をワーキングで協議していくので、早急に実証運行を実施することは難しい。冬季の危険個所については、バス運転手にも意見を聞いていきたい。

南砺市営バスにおける自由乗降について、会長から委員が合意したことの確認がとられた。

報告事項（１）「令和元年度南砺市営バスの利用状況について」説明

事務局）資料に基づき、令和元年度の南砺市営バス利用状況について説明。令和元年度の総利用者数は、平成３０年度から微増であった。

報告事項（２）「令和元年度南砺金沢線バスの利用状況について」説明

事務局）資料に基づき、令和元年度の南砺金沢線バスの利用状況について説明。令和２年３月以降、新型コロナウイルスの感染拡大により、大幅に利用が落ち込んだ。

報告事項（３）「その他公共交通の現状について」

加越能バス(株)草木部長)

４月から７月まで観光バスはほとんど動いていない。路線バスの利用は４月から７月で、対前年で６０％以上減っている。テレワークの普及や、３密を避ける意味でも利用が減っている。関東、中京、関西方面への高速バスについてもほぼ壊滅状態であり、今日から減便している。市民の行動に関する考え方も変わってきている。そのような中でどのように行動を起こすべきか問われていると考える。

西日本ジェイアールバス（株）大久保支店長)

状況は加越能さんと同様。東京行き的高速バスは全便運休、他の路線は減便して運行している。国鉄時代にレールのない所にバスを走らせたが、山間部の路線は苦戦している。市内を走る路線バスは、６０から６５％くらいまで利用が減っている。また、貸切については３月から全く運行していない状況。先ほども話があったが、人口が減っていく中では観光の目線を加えていく必要がある。

砺波地区タクシー協議会余西会長)

われわれ二次交通を担う公共交通については、最悪の状況。３月は前年の３０％、４月は７５％、５月７０％、６月５０％、７月４０％それぞれ減となった。昼は高齢者の通院、夜は酔客の利用が多く、最近では昼の利用の方が多くなったが、コロナの影響で通院利用が３分の１程度となった。この状況が１年も続くと、タクシーは存続が難しい。皆さまには公共交通利用を推奨していただけるようお願いしたい。

報告事項（４）「デマンド交通の検討状況について」説明

事務局) デマンド交通の類型としては定路線型や路線可変型、自由経路型などがある。受付業務についてはシステムを利用したものや電話を併用したものなど様々である。市営バスへの導入については引き続き検討していきたい。

以下、質疑応答

委員) 人口が密集していない地域では、各地域のタクシー事業者と協働し、タクシーデマンドといったことも検討していただきたい。また、ＪＲの最終便まで人件費をかけてタクシーサービスを行うことについて、現状ではできにくくなっている。事業者任せということではなく、市としても補助等検討してほしい。城端駅前の入口と出口が分かりにくい。出口からの進入も多いと聞いているので、規制を検討してほしい。

事務局) 市営バスのデマンド運行は、タクシー事業と競合しないようにという所が重要なので、タクシー事業者の皆さんと協議しながら検討していきたい。また、タクシーの夜間待機について、車を運転されない高齢者を中心に大切なサービスだと考えており、砺波地区タクシー協議会と相談したい。城端駅前広場の進入路については、危険な状況もあると認識しているので、関係者に相談していきたい。

委員) 近隣のデマンド運行の話を知ると、前日15時まで予約が必要で使いづらい。そうした事例を踏まえながら検討してほしい。

事務局) デマンド運行について、当日30分前までの予約を実現している例もあるので、色々な事例を調査して検討していきたい。

委員) 自分もいつ免許証を返納しなければならないかとヒヤヒヤしている。デマンド運行は魅力的に感じる。ぜひ進めてほしい。

事務局) 免許を返納されたときには、バス停まで歩く体力がなくなっているという状況もあると考えており、今後さらにバスのデマンド運行やタクシーサービスが求められる。こうしたニーズにどのように対応していくかは、大きな課題であると認識している。

委員) ワーキングの委員には私のような市民や、専門家の素晴らしい方もメンバーになっている。市営バスのデマンド運行といったあたりを皆さんとフリーで話ができるか。

事務局) 委員会では詳細まで議論できないといったこともある。フリーで話ができる場を検討させていただく。

閉 会